

地域教材等を活用し、児童の思いを主体的・対話的で深い学びにつなげる授業の実践

(1) 地域教材等を効果的に活用した授業づくり

夏季休業中、福島県小学校教育研究会主催の理科臨地研修会が相馬郡新地町と相馬市で開催された。その研修に参加し、相馬中村層群研究会荒好様から相馬地方の地層や化石のご講義を受けるとともに、中世代ジュラ紀栃窪層から産出した植物化石の採集活動を行った。

研修内容をもとに、「大地のつくりと変化」の授業に地元から産出した化石を活用することで、児童が学習内容をより身近に感じ、主体的に問いを生み出し、学習課題の設定や課題解決につながると考えた。(写真ア)



(2) 化石採集の活動からその当時の環境の考察へ

児童は、植物がどのような経緯で化石になっていったのかを、植物化石の採集活動を行いながら考えた。(写真イ)

その後、児童一人一人が植物化石や岩石の特徴から、その当時の環境について予想を立て、各グループで話し合い、ホワイトボードに絵や図などで表現した。(写真ウ)

その上で、各グループがその当時の環境について学級全体で発表し合い、児童たちが想像した環境の共通点を教師が絵や図、キーワード等で可視化し、共通理解を図った。(写真エ)

最後に、相馬中村層研究会が作成した、中生代ジュラ紀栃窪層が形成された当時の環境の想像図と児童たちが考えた当時の環境を比較し、さらに考察を深めた。(写真オ)

